

はじめに

情報処理センター所長 湊 敏

10年一昔といいますが、昨年情報処理センターは“情報処理センター年報第10号記念号”を発行いたしました。年報1号が発行された時からの10年をふり返ってみますと、情報処理センターのコンピューター機器の教育利用目的は、教養教育としての情報教育で大きな変化を遂げました。第1号が発行された当時では、コンピューター機器の教育利用目的の主たるものは、教養教育ではワードプロセッサ（ワープロ）教育やプログラミング教育、専門教育では統計処理教育や地理情報処理教育でした。ところが現在の教養教育では、ワープロ教育に加え、Window操作や電子メール利用、ホームページによる情報検索およびホームページの作成という教育内容が大きな要素となってきました。この変化の大きな理由は、コンピューターのグラフィック・ユーザー・インターフェイスの進歩とマルチメディア対応、アプリケーション・ソフトの充実および社会の変化です。このように社会の動きと共に、コンピューター機器の教育利用の目的は大きく変わっています。

本号は、10号を一区切りと考えた時、20号発行のための第1歩である第11号になります。この新しい10年の第1歩を踏み出すにあたって、今後10年で情報処理センターの機器利用の目的はどのように変わっていくかを考えてみたいと思います。専門教育での利用目的は大きな変化がないと思われませんが、教養教育として情報教育の目的は大きくかわると思われれます。その理由は、小学校、中学校、高校での教育内容が変わり、これらの教育課程にコンピューター教育が取り入れられたことです。このことを考えると数年先には、教養教育の中心となるのは、マルチメディア技術の普及により自分の考えをグラフや図面を利用して如何に相手に伝えるかといったプレゼンテーション能力の教育になると思われれます。

また、今後コンピューター機器が利用される目的として教材提示ということが考えられます。これまでは、コンピューター機器は主として情報関連科目で利用されてきましたが、情報と全く関係のない科目においても利用されると思われれます。かなり以前から、医学部や1部の理系学部では教材提示の目的で情報機器が利用されてきました。最近では文系の学部でも、これまでの黒板やプリントだけでなく情報機器を利用して教材を学生に提示する試みがなされています。この試みは学生の評判も非常によいと聞いています。本学におきましても、今後情報とは全く関係のない科目でも情報処理センターが利用されるようになってくると思われれます。

本情報処理センターもこのような時代の流れを考え、来年度の機種更新に伴い新しく教材提示システムの導入を行います。初めての試みですので皆様のご意見を取り入れて運用を行いたいと思っています。どうぞ皆様の貴重なご意見を賜われることをお待ちしております。